

数字で見るアルシェ

Q. アルシェに関わっているボランティアの数は？

A. 約400名

アルシェには「人材バンク」という制度があって、約300名が登録しているよ。

Q. アルシェが設立をサポートしたNPO法人数は？

2004年1月20日現在81
北播磨地域に所在する
NPO法人数は48団体。

Q. 会議の種類と年間開催数は？

A. 総会・・・1回、理事会・・・12回

運営協議会・・・6回、評議員会・・・2回

Q. 設立してから実施した事業の数

A. 約250事業

エクラ指定管理者としての自主事業と、法人本部の事業、各機関からの受託事業だね。

シリーズ
listen to....

聞く Vol.13

「自慢できる「アルシェのこと」とは？」
NPO法人で、兵庫県下最大の規模であるということです。その実力が全国に認められつつあり、全国のモデルケースとして確立しつつあるのが「今」のアルシェです。とにかく、職員が成長が凄いと誇っています。そして、常設委員会としてのボランティアの数が年間500人。それとは別に

プロフィール

柳田 吉亮 (やなぎた よしひろ)

1954年小野市に生まれ。小野高校を経て、大阪経済大学経営学部を卒業。1994年社団法人小野加東青年会議所の理事長、2000～06年小野まつり実行委員会会長。現在、オーゾヤ商事(株)代表取締役、NPO法人北播磨市民活動支援センター理事長、小野商工会議所常議員等を務める。

「最後に、「革命」に必要なものとは？ 揺るぎない理念と行動力。私はそう信じています。」

「めざせNPOのリーダー」
「こうなって欲しいアルシェとは？」
目指せ、NPO界の上場企業です。上場企業には、中小企業にない組織力と仕組みがあり、やはり世界のトップに通じるものがあります。規模だけでなく、NPOというジャンルの上場企業になれるような組織を構築していくことで、そのリーダーとして動けるようになって欲しい。」

季節ごとに、ここまで花の色彩から種類までを考えた美しい花壇は、フラワーマイスターを中心にガーデニングボランティアたちが「きれいですね」という声に、やりがいと生き甲斐と誇りをもっているからできることなんです。私は、このガーデニングボランティアがアルシェの理想型だと思っています。

「立ち上げでうまくいかなかったケースは？」

これは私の失敗ですが、「話せば分かる」そこから出発したんですね。従来の市民活動という固定概念を崩さないで、新しいものを生まれさせることができないかと思っていました。そのため、多くの時間を割いて、分かつてもらえるように努力したので、分かつても今までのやりかたを否定してしまっているんじゃないかと不安に。改革には痛みが伴うもので、それが否定的な相手は尊重すること

「成果主義への今後」
「エクラがオープンして丸四年。アルシェではなにができて、なにができてきたか？」
でプラスに代えていこうと思うようになりまし。そして試行錯誤の末、うれしいことに、市民活動に興味を持ち、また実際に活動する人が新たに増えてきて、確かな手ごたえを感じるようになりまし。

できすぎなくらい、自立活性化の発

いつの時代も移り変わっていく。ほんの10年前、わずか5万人に満たないこの地方都市に、約11万人が集まる「小野まつり」を誰が想像できたでしょう。オープン以来4年間で100万人を超える人が訪れた「うるおい交流館エクラ」という市民に愛される場が誕生したことも。

今回は、その立役者であるNPO法人北播磨市民活動支援センター(愛称アルシェ)の柳田理事長に「これからの市民活動」について語っていただきました。



やなぎた よしひろ
NPO法人 北播磨市民活動支援センター 理事長 柳田 吉亮さん

五周年を迎えた

「今」ある「アルシェ」

「市民活動革命からの出発」

「アルシェが目指すものとは？」
アルシエーターの創刊号でも述べてきたように、「参画と協働を実践できる自立した市民活動団体の育成」です。ここでいう「自立」とは、予算管理という社会資本の根拠を考えることができ、認知されるということなんです。私はそういう意味で、市民活動の自立活性化は産業革命にも匹敵する「市民活動革命」だと思っています。

今までの市民活動のあり方を変えていかなければ、小さな行政という社会の移り変わりのなかで市民活動が機能しなくなるという危機感がありました。馴れ合いになってしまいがちだった行政との受身的な関わりから一歩も二歩も前進させた、自分たちがやりがいと責任をもった活動に発展させていきたい。自分たちの好きなことやりたいことを、ここアルシェでじっくり取り組みながら、そのしんどさも喜びも自分たちの手で実感していつてほしい。そのエキスパートとして、アルシエの職員を育ててきました。

「アルシエでの「自立した活動」を紹介いただけますか？」

例えば、この建物の周囲にはバラ園があり、ノットガーデンがあり、ここを訪れる方の目をいつも楽しませてくれています。その植栽の維持管理は全て、フラワーマイスターエクラ班のメンバーによるものなんです。苗の選定から水やりまで、そしてそれにかかる経費の算出も委託しています。業者に委託すれば何倍もの経費がかかります。こういって、体よくボランティアをただ働きさせているだけじゃないか、と口さがない世間から返されるかもしれないませんが、そういう方にはぜひ、このガーデニングを見ていただき

信はできてきました。新しい人たちの輪ができ、事業を起し、また理事会では記録として残らない資料なしの議題が上がることはなくなりまし。できなかつたことと言えば、自分たちの仕事に対する厳しさでしょうか。私としては、コスト意識も含めてパランス感覚のある、そして市民活動は社会的に価値のある重要な活動であるという認識をもった市民活動自立活性化のエキスパートが職員から育っていくのが夢なんです。

「今、アルシェが抱えている悩みは？」
これは自分の首を絞めることなかもかもしれませんが、成果主義を取り入れようとしています。がんばったら儲かる。そうすると、自分たちの向かうべきミッションに資金を投入することができる。NPO法人にも営業活動が不可欠になってきたということです。